

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立仲六郷小学校

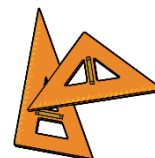
1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成 果

- ・ 作図に取り組む時間を十分に確保したり、身の回りの具体的な形を対象としたりしたことで、図形に対する理解が深まった

(2) 課 題

- ・ 基礎・基本となる計算力・公式の理解力で確実な定着がされていない。既習事項の振り返りや繰り返し練習、ITC 機器の効果的な活用による学習の積み重ねながら基礎的な計算力を高められるようにする。
- ・ 学習課題の読み取りができないことで、問題の意図に即した回答ができない児童が多い。読解力を基礎とした、思考・判断を高める学習に取り組み、柔軟な発想や学習したことを活用する力を高められるようにする。



2 大田区学習効果測定の結果について

(1) 達成率（同一集団の経年変化）

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
第4学年	・目標値より2ポイント、区平均より7ポイント下回っている。特に大きい数、小数と分数、わり算が課題である。	・目標値をやや下回る。「たし算・引き算」に課題がある。	
第5学年	・目標値より3.9ポイント下回る。特に面積の求め方、グラフの見方、読み方に課題がある。	・目標値をやや下回る。「小数」「変わり方調べ」に課題がある。	・目標値をやや上回るが、「数と計算」に課題がある。
第6学年	・目標値より5.2ポイント下回る。特に割合が課題である。	・目標値をわずかに下回る。「整数のなかま分け」「割合」に課題がある。	・目標値をやや上回るが、「計算のきまり・変わり方調べ」に課題がある。

(2) 令和4年度の結果分析（観点別）

・4学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・余りのあるわり算の計算や、2つの時刻の間の時間を求めることが苦手である。 ・分子が1の分数が何個で1になるのか理解していない。また、数直線上の数を読み取る力が弱い。	・余りのあるわり算の文章問題で問題を解くために立式し、余りを処理して正しい答えを求めることができない児童が多い。	・表と棒グラフの問題で無回答が目立つ。読み取る力、それを表現する力、など複数のことを処理する力、問題に粘り強く取り組む力を伸ばしていく必要がある。

・ 5 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 直線の垂直や平行の関係の理解が弱い。折れ線グラフの読み取りはできているが、二次元表の読み取りができていない。図形の特徴やグラフの見方、作図も含めて理解の定着が課題。	・ 小数の計算問題や数直線上に示された分数の読み取りが弱い。	・ 面積の計算問題や図形の作図、数直線やグラフ、表の読み取りで無回答、誤答が目立つ。問題を読み取る習慣、課題に粘り強く取り組む力が課題。

・ 6 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 割合を求める計算が特に弱い。比例関係の選択は大きく落としていないことから、割合の求め方の定着が課題。	・ 小数倍の文章問題の立式や、小数除法の立式が弱い。	・ 割合を求める問題で無回答が大きく目立つ。理解できない問題に粘り強く取り組む力が課題。



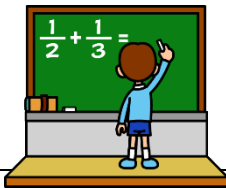
3 授業改善のポイント

・ 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 年 ・ たし算やひき算の計算について、カードやスキル、宿題プリントなどを使って繰り返し練習に取り組む時間を確保する。 ・ キーワードと立式に必要な数値を問題文から読み取らせたり問題場面をブロックで表したりする活動を通して、問題の意図を正しく理解できるようにする。 2 年 ・ 直線をひくという学習活動を反復して行い、技能が正確に身に付くようにする。 ・ 計算スキルやプリントを活用し、数量や図形についての技能の定着を図る。 ・ 具体物を用意し、視覚的に理解できるように教具の工夫をしたり、具体物を操作する活動場面を多く設定したりして、数量や図形の理解を深めるようにする。	1 年 ・ 考えた過程を説明する場を設けたり友達の考えを聴くときには、自分の考えと同じ点、違う点はどこ改訂させたりするなど、考えを伝え合い、表現する活動を増やしていく。 2 年 ・ 絵や図を書かせて、問題の意味理解を図れるような指導をしていく。 ・ 考え方を伝え合い、表現する活動を増やしていく。 ・ 本時のキーワードを提示し、文章題では、意識化を図る。	1 年 ・ 意欲的に取り組めるように、具体物や半具体物など、視覚的に分かりやすい教材を用意する。また、操作する時間を十分に確保する。 2 年 ・ 苦手な児童も意欲的に取り組めるように、習熟度別プリントを利用し、スモールステップで学習を進める。 ・ 確かめや振り返りを充実させ、定着の時間を確保する。 ・ I C T の活用により、知識・理解、技能の習得、反復練習も意欲をもって取り組めるようにする。

・ 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3 年 ・ 習熟度の段階に応じて、授業の始めに単元の系統にあった既習事項の復習をし、知識を確かなものにする。 ・ 仲六学習スタンダードの徹底を図り、学習習慣の確立に努めさせる。 ・ 基礎的な計算力を高め、文章題の立式や筆算の仕方ができるように、ドリル学習やタブレットドリル等を活用し、繰り返し学習に取り組ませる。 4 年 ・ 朝学習でプリントやタブレットを使って、学習内容の定着を図る。既習内容についても、宿題で取り組むようにするなど繰り返し問題に取り組むようにする。	3 年 ・ 課題については、具体物や図、式を用いて考えさせる。ミニホワイトボード等を活用し、立式の理由を共有し互いに学び合う活動を多く取り入れるようにする。 ・ 問題文の大切な箇所に線を引き、問題の意味を正確に把握できるようにする。 4 年 ・ 毎単元、学習感想をノートにまとめる。 ・ 立式して答えを求めるだけではなく、図やイラスト、数直線などを使って、自分の考えを書くようにする。書いたものは、グループや学級全体で発表する場面を確保し、共有する。その際、式と関連付けて説明するなど、児童が自らの考えを広げ、深められるようにする。	3 年 ・ 毎時間毎の終末では、適用問題や振り返りをするようにし、「できた」「分かった」を価値付けていく。 4 年 ・ 身近にある算数(小数や分数を探、メートルやリットルなど)を見つけて、授業内で発表したり共有したりして生活と結びつける。 ・ 習熟に応じた問題で定着を図り、できた経験をたくさんさせる。



・ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 年 ・ 学習習慣「仲六学習スタンダード」の徹底を図っていく。 ・ 図形の面積や体積、作図に関する単元では、公式を導く過程で、図形を構成する要素、それらの位置関係などに着目させ考えるようにしていく。 ・ 表の見方や作図の仕方では、縦と横の項目の関係を捉えさせるようにしていく。 6 年 ・ 割合に関する単元では、常に1あたりの量に着目させていく。 ・ 課題については、数直線で捉えさせ、必ずもとにする1から考えてかけ算から数量の関係を捉えさせるようにしていく。 ・ 立式の根拠は複数扱いながらも、	5 年 ・ 作図の作成では、定規、コンパス、分度器等、の用具の正しい使い方を図っていく。(デジタル教材)の活用 ・ 小数の計算問題では、既習の計算方法や倍の学習を基に考えさせ、計算の仕方を丁寧に共有していく。 ・ 分数の学習では、分割分数、量分数、割合分数等の意味の違いを捉えさせていく。 6 年 ・ 文章題では、基にする量と比べられる量や、もとにする1、単位に着目させ確実に読み取るようにする。 ・ 立式の根拠を上げさせ、式が成り立つ理由を図や数直線を進んで活用できるようにしていく。	5 年 ・ 単元や毎時間毎の終末では、習熟度にあった適用問題や振り返りをするようにし、「できた」「分かった」を価値付けていく。 ・ 日常の生活や他教科、既習事項との関連を踏まえながら、見通しをもって、自分の考えを伝え、主体的に取り組めるようにする。 6 年 ・ 単元や毎時間毎の終末では、習熟度にあった適用問題や振り返りをするようにし、「できた」「分かった」を価値付けていく。

必ず数直線の考えは取り上げていく。 問題場面と式を対応させるやり取り、タブレット端末を活用した計算技能の習熟が図れるようにしていく。	児童が考えを伝え合う活動を設け、自分の考えを広げ、深められるようにする。ITC 機器を活用し、考えを共有していく。	日常の生活や他教科、既習事項との関連を踏まえながら、見通しをもって、自分の考えを伝え、主体的に取り組めるようにする。
---	---	--